

## 平成30年度かみふくおか作業所事業報告

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

はじめに

障害福祉サービス事業所（就労継続支援B型）へ移行10年目の事業は、平成30年度かみふくおか作業所事業計画に基づき実施しました。生産活動においては、夏季の猛暑への対応を図り、平成6年から続けた店の閉店と古本等を通販サイトへの出品により、前年に引き続き就労支援計画の見直しを図りました。

### 1 支援の充実について

#### (1) 作業支援について

今年度は、8つの作業内容（資源回収作業・古本販売作業・古着作業・缶つぶし作業・清掃受託作業・バザー・リユース品作業・受託等物品販売）を実施しました。

#### ア. 作業について

##### (ア) 資源回収作業

利用者と地域との関わりを深め、他の作業量確保のため、作業所がある地域の約3,300世帯の方々のご協力でご紙などを定期的に回収させていただきました。今後は、回収時の支援と事故防止等に重点を置き、リユース品回収への特化と、回収ルートを活用した商品販売の検討が課題です。

##### (イ) 古本販売作業

通販サイトへの出品関係では、発送や包装方法を変更することで経費削減をしました。作業所の店「トトロ」の閉店と旧給食センターでの保管からコンテナ倉庫へのイベント在庫の保管変更による保有在庫量基準の見直しを行いました。また、データ入力を一元化することで多くの利用者の参加と効率化を図りました。

##### (ウ) 古着販売作業

値札の改良や販売種類の変更を行い、売上を微増させることができました。また、保管場所が少ないこともあり、セール販売や棚卸を行い在庫管理を行っていき、より販売につながる古着の在庫を増やします。

##### (エ) 缶つぶし作業

室外作業による寒暖対策と衛生安全への配慮、必要な備品整備に努めるとともに、利用者と支援員が注意事項等の確認をしました。

##### (オ) 清掃受託作業

地域との交流と社会参加を積極的に行なうことを念頭に置きながら利用者の健康の維持を目指しました。また、効率性を求め清掃用具の工夫に努力するとともに、作業手順を明確にし、利用者の作業理解や積極性を図りました。

##### (カ) バザー・リユース品作業

バザー品の部分的なカテゴリー化を図ることで販売価格の設定を簡略化できました。今後は残るカテゴリーの価格設定の検討と、イベント販売とリユース業者販売の関係性の明確化、募集の方法や、イベント販売では保管・販売・廃棄の管理データをもとに販売方法等の工夫を図るとともに、通販サイト出品の検討の必要があります。

(キ) 受託等物品販売

川島町の農家からお米を仕入れ販売を行いました。米価の上昇による販売価格の検討を行いました。また、きょうされんの物品の販売価格の見直しを図りました。

(ク) 解体作業

アルミ缶類も古紙同様に回収量が減ってきたことから、パソコンや家電を解体し、金属種別の販売をおこないました。

イ. 就労支援計画の実施と検証について

今年度の利用者一人あたりの工賃平均月額、34,719円でしたが、利用者の住みなれた街で暮らすことに必要な経済的基盤の構築には程遠いため、更なる施設の工賃支払い能力スキルを上げることと経費削減の必要があります。

(2) 生活支援について

利用者が主体となって企画するために必要な力、会議の進め方などを継続的に発揮・向上できるように、様々な行事において実行委員会体制を用いて実施しました。今年度は利用者の選択する力や会議の経過の記録をとること、情報収集方法にメディア等媒体以外の知り合いから情報を得るといった新たな取り組みも始めました。また、エンパの会では、利用者の主体性を高める手段として出かける行事の内容を自己決定するために、社会生活に必要なスキルの学習や情報提供を行いました。また、グループホーム利用者のため、ホームと保護者との連絡体制を整えました。

ア みんなと楽しく食べられる食事の支援を心がけました。また、利用者の楽しみやお金、栄養バランス等の学習も兼ねた「ごちそうディ」を実施しました。

イ 送迎希望者に送迎を実施しました。また、自力通所の方には、通所路の安全確認や自転車の保守や保険の状況確認を行いました。

ウ 健康診断を実施しました。視力検査については、事前に利用者個々の状況に合わせた支援が必要です。また、インフルエンザ対策として、冬季の体調管理を進めました。

エ 利用者が主体となって企画する行事として、忘年会とレクリエーションに実行委員会を設置しました。

オ 普段生活している地域社会の中で、日常あまり経験出来ないことを楽しく経験することを目的にレクリエーションを実施しました。

2 円滑な運営と業務の推進について

(1) 作業所での専門性を高めるため、職員個別の研修計画を策定し、計画的に研修を行いました。AED(自動体外式除細動器)の未受講職員の講習を受けました。

(2) 施設・設備の整備等については、月に2度清掃重点日を設けました。

- (3) 市民への理解と協力を広げるため「作業所新聞『かみ★ふくおか』」を12回発行(通巻330号)、月3500部配布しました。また、ホームページの更新を必要に応じ実施しました。
- (4) 火災の発生や地震における二次災害を防止するとともに、利用者及び職員の安全を確保し、併せて作業所の財産の保全を図るため、火災とインターネットを介した緊急地震速報を活用した地震に対する訓練と東日本大震災における対応等に関して、作業所と自宅までの安全に関する検証及び緊急時送迎訓練を行いました。また、非常食の日の実施や保護者会から備蓄品用倉庫の寄付をいただきました。
- (5) 職員の障害に関する知識と技術向上のため、自傷・他害行為や行動障害について利用者に即した支援内容の検討を継続して行いました。

### 3 利用者、家族との連携について

地域でのイベントには積極的に参加し、施設のアピールをするとともに、実行委員として会議等に出席し、利用者の社会性の獲得・社会経験をえられるように取り組みました。

- (1) 保護者会との連携に努め、支援法の更なる理解と障害者の地域生活のあり方や権利などについて学習をしました。また、グループホーム等の設置に向けた研修を行いました。
- (2) 個別支援計画を利用者、保護者と協働して見直しました。
- (3) 今年度は行事等の企画に関して、投票や絵図を使用するといった工夫を行うことで、利用者が主体となって行事を立案、実施しました。

### 4 地域との連携について

- (1) 地域の関連諸団体や関係施設との協力について

ア 上野台団地での定期的な資源回収やその他の地区の方々たちと繋がりを保っています。

- (2) 特別支援学校、中学校及び学生の実習生を受け入れに協力をしました。
- (3) 地域の人々及び周辺の施設や団体と交流・関係をつくる機会を設定することを目指し、出張トトロを実施しました。
- (4) きょうされん川越・東入間ブロックの利用者交流会に参加しました。

### 5 日中一時支援事業について

利用はありませんでした。



	24日	個別支援計画策定会議
10月	2日	消防設備点検
3月	1日	集団資源回収説明会
	23日	職員健康診断
	30日	消防訓練(送迎訓練) 非常食の日
		定期職員会議 毎月第1金曜日
		就労支援会議 毎月第3金曜日

#### 4. 研修

	4月20日	工賃向上計画を推進するための研修
	6月1日	「私の歩み、障害のある人とともに実践と運動」学習会
	8月5日	全障研埼玉大会
	11日	発達障害の生活サポート
11月	9日	朗真堂見学
	15日	障害福祉情勢研修
12月	20日	知的障害の重い人でもできるパソコン作業
1月	4日	埼玉県虐待研修会報告
3月	1日	「障害のある人への虐待の防止について」研修

#### 5. 支援関係

	4月27日	いけいけ委員会
	5月24日	環境フェア一会議
	26日	ハイキング
	6月23日	すまいるフェスティバル
	18日	ふれあい広場会議
	7月1日	いきいき運動会
	8月3日	消防訓練・非常食の日
	29日	利用者交流会
	9月14日	歯科検診
10月	6日	学童フェスティバル
	20日	環境フェア
11月	3日	子供フェスティバル
	10日	送別会
12月	2日	ふれあい広場
	28日	忘年会
	2月22日	レクレーション
	3月3日	非常食の日
	27日	花見

出張トトロ 5月10回、6月13回、9月3回、10月12回、11月11回、12月7回  
1月6回、2月6回、3月3回  
ごちそうDAY 毎月第2月曜日

6. 見学等の来所

5月20日 塙保巳一学園見学  
22日 埼玉大付属特別支援学校見学  
8月10日 あおぞら特別支援学校見学  
28日 日中支援部会見学  
3月11日 サービス等利用計画事業所見学

7. 地域関係

第3木曜日 きょうされん川越・入間東ブロック会議

8. 実習生関係

11月 8日～ 福岡中学校 2名  
12月 7日～ 文京学院大学 3名  
2月 8日～ あおぞら特別支援学校 1名  
2月27日～ 山村短期大学 2名

9. 保護者関係

4月14日 保護者会  
7月29日 "  
9月20日 "  
2月10日 個別支援計画面談

10. ボランティア関係

くまのぷーさん 第3金曜日